

巻頭言

安全

宮崎 祐助



「宮柱太しきを そこつ（底津）岩根のきわみ（極）堀り据える いしずえ（礎）の……」, これは地鎮祭などで神主がおごそかに奏上する祝詞の一部である。工事に先立っての儀式の中でこのように安全なものを造ります, という決意表明をしているとあってよい。神代の時代から, 我々は基礎をより深くより堅固な地盤に設置し構造物の安全を図ってきたものである。

しかるに, 予期もしなかった耐震偽装事件が発生し, 以来, 建物の安全に対する不信感を多くの国民に持たせてしまった。建設技術者の一人として誠に残念に思う次第である。弁解の余地の無い事件なのでなんとも悔しい限りだが, マスコミの報道姿勢にも, いつものことながらの片手落ち報道が感じられ, またまたダーティ業界を世間に印象付けられてしまった。なにしろ彼らは, 江戸の昔から我々の業界を「手抜き工事に談合の世界」と位置づけているのだから始末が悪い。日本の建設業は, 科学技術立国として世界に誇れる技術集団である, と私は考えているが, こんな記事では新聞は売れないとでも思っているのだろうか。

ある工事で, 安全をお金で買えるのであれば安いものだ, といった人がいる。その通りだと思う。安全にも, それに見合った対価が必要なのである。安全を空気のようになっている節もあるが, 私は, 敢えてこれを「安全ボケ」と言っている。世の中に安くて良い物などそうざらにあるものではない。「欲ボケ」してはいけない。

今の建設業界は, 健全な経済活動がなされていない。圧倒的に優位に立つ発注者の言いなりの感がある。嫁にいった晩じゃあるまいし, こんな一方的な力関係でまともな商取引ができるわけがない。諸悪の根源はここにあると思っている。

耐震偽装事件を期に建築学会は, このほど「健全な設計生産システム構築のための提言」と題する公式意見を出した。品質確保のための自助努力, 法令規制, 被害者救済のための仕組み, といった項目ごとに提言されている。提言の内容はそれなりに申し分の無いも

のであるが, 肝心の不平等契約問題には触れておらず, 仏作って魂入れずの感のものとなってしまった。

安全であるかどうかは, 目で見ても分からないから誤魔化しやすい, とする人がいる。基礎工事は, すべて目で見えない状態で構造物を作っている。がしかし, 目に見えないからといって手を抜いたら, 上部構造の荷重が載った段階で必ず不具合が出てくる。目に見えないからといって手を抜けるものではない。そのための努力を忘れてもらっては困る。勘や手探りで杭を造っているわけではない。目視できない支持層の確認にはそれなりの工夫をしている。さらには, 多額の費用をかけて技術開発もしている。場所打ち杭の拡底杭や節杭はその成果であり, 立派な施工技術である。しかしながら施工技術の開発費が工事費に反映されたという話は聞いたことが無い。製品が良くなっても価格面にはフィードバックすることが出来ない土壌が今の日本にはある。物が良くなったのだから高くなるという一般的な常識がこの業界には無い。そのくせ品質と安全だけは, 安かろうと高かろうとそんなことには関係なく保障されるものと, 何の疑問も持たずに思っている。ブランド物は, 高いけれど品質は保証されている。これは皆承知している。しかし, 構造物の構造体に関しては, 高級品という感覚は無く, 全て皆同じである。ブランドものの杭などというものが有っていいとは思わないが, それでも何となく釈然としない思いがある。

企業と技術者の努力を正しく評価し, それに見合う対価が支払えるような環境の実現に向けての談合（話し合う）をすべきではないかと, いつも思っている。

科学・技術立国を自称する国が, 技術を正当に評価せず, 技術を安売りさせるような風土をいつまでも是正することなく放置していいのかと問いたい。一日も早く真の科学・技術立国になってもらいたいものだと思う次第である。